

宇部市 第3期SDGs未来都市計画
(2024～2026)

「人財が宝」みんなでつくる
宇部SDGs推進事業
～「共存同栄・協同一致」の更なる進化～

宇部市

< 目次 >

1 将来ビジョン	
(1) 地域の実態.....	2
(2) 2030 年のあるべき姿.....	6
(3) 2030 年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール、ターゲット.....	8
2 自治体SDGsの推進に資する取組	
(1) 自治体 SDGs の推進に資する取組.....	12
(2) 情報発信.....	19
(3) 普及展開性.....	21
3 推進体制	
(1) 各種計画への反映.....	22
(2) 行政体内部の執行体制.....	24
(3) ステークホルダーとの連携.....	25
(4) 自律的好循環の形成.....	30
4 地方創生・地域活性化への貢献	32

1 将来ビジョン

(1) 地域の実態

①地域特性

<地理的条件>

宇部市は、本州西端の山口県の南西部に位置し、気候は温暖で、海や山などの豊かな自然環境に恵まれている。

また、山口宇部空港や山陽自動車道、鉄道、宇部港といった陸海空の交通基盤が、市街地に近い位置にあるなど交通環境は整っており、特に、空港から市全域には1時間以内で結ばれるアクセスの良さを有している。



<発展の歴史>

～ 寒村から「共存同栄・協同一致」のまちへ ～

宇部市の発展は、明治期以降の石炭産業の振興を礎としている。

明治維新という大きな時代の転換期において、自らの地域は自らの手でつくるという自治意識が芽生えることとなり、江戸後期から採掘が始まった石炭を礎に、経済的自立を目指した。これにより、明治期以降宇部地域の中心産業となった炭鉱経営においては、誰もが平等に扱われる独特のシステムによって男性、女性を問わず様々な人々が土にまみれ、額に汗しとともに働く姿があり、これが、産業振興、地域発展の大きな原動力となった。

その一方で、宇部の人々の強い郷土意識、強固な共同体的精神のもと、村民で組織した「宇部共同義会」を母体として、石炭で得た利潤を、村立中学校の建設や、県立宇部工業高校の誘致、警察署・郵便局の設置、ときわ公園の整備、図書館の建設など様々な社会事業に投資し、地域の基盤づくりが進められてきた。

こうした経緯の中で、宇部の伝統とされる「共存同栄・協同一致」の精神が育まれながら地域経済は発展し、石炭鉱業の発展に伴う人口の急激な増加も背景として、大正 10 年(1921 年)、「宇部村」から一躍「宇部市」へと市制を施行することになった。

～ 「宇部方式」による世界的なばいじん公害の克服 ～

その後、震災により市街地の大半が焼失したものの、まちの再建にかける市民の熱意と戦後の復興景気とともに、順調な復活を遂げたが、産業の発展とともに、企業の石炭使用量が増加し、「世界一灰の降るまち」といわれるほどのばいじん汚染が大きな問題となった。

この未曾有の危機的事態に対して、宇部市では、昭和 26 年(1951 年)、全国に先駆けて、条例に基づく「宇部市ばいじん対策委員会」を設置し、その後「宇部方式」と言われる独自の公害対策の取組を積極的に展開し、ばいじん汚染の克服を図った。

この「宇部方式」は、まだ公害対策への法整備が進んでいない中で、地域の「産・官・学・民」の四者が、相互信頼、連帯の精神に根ざして一体となり、自分たちが住んでいる地域社会は自分たちで守ろうという自治意識のもと、情報の公開を基礎に、科学的調査データに基づく話し合いにより公害を克服するもので、まさに、発展の過程で受け継がれてきた「共存同栄・協同一致」といった宇部の精神により生み出された賜物である。

こうした取組が諸外国においても、持続可能な開発の基盤である「環境の保護と改善」を推進するにあたって、広く活用できるものとして国際的にも高く評価され、平成 9 年(1997 年)には、国連環境計画(UNEP)から、自治体として 3 団体目となる「グローバル 500 賞」の授与に至った。

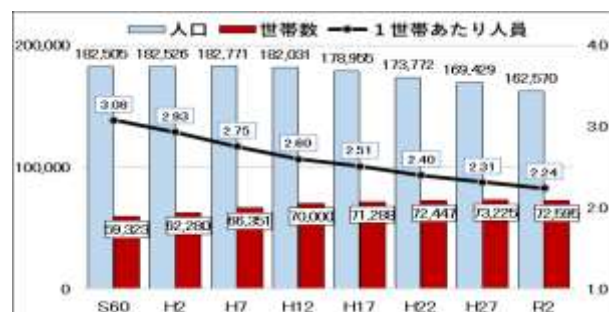
～「宇部方式」による独創的なまちづくりの展開「緑と花と彫刻のまちづくり」～

この頃の宇部市では、戦後の荒廃や貧困などの社会不安が青少年の心をむしばみ、少年の非行が大きな問題となっていた。

こうした事態に対して、人々に潤いをもたらす美しいまちを築いていこうと、女性たちも立ち上がり、市民の憩いの場としてのときわ公園の整備事業や、市内企業からの募金による「緑化運動」、全市民層で展開される「花いっぱい運動」、毎年春秋に職場や学校単位で開催される「花壇コンクール」など、後に「緑化事業の宇部方式」という取組が全市的に展開された。

さらに、国内で初めてとなる大規模な野外彫刻展の開催を機に「宇部を彫刻で飾る運動」が進み、現在では、世界各地のアーティストが参加し、野外彫刻展としては国内有数の歴史を誇る「UBE ビエンナーレ」へと繋がっていった。

宇部市の人口推移(国勢調査)



<人口動態>

宇部市の人口は、出生数の低下や転出超過等により、平成 7 年の 18 万 2771 人をピークに減少に転じ、令和 2 年の国勢調査では、16 万 2570 人となっている。

世帯数は昭和 55 年から増加する一方、世帯人員は平成 2 年に 3.00 を割り込み、令和 2 年には 2.24 まで減少しており、単身世帯の増加や核家族化が進行している。

老年人口が昭和 30 年以降上昇する一方、年少人口は昭和 30 年以降減少傾向であり、平成 7 年を境に、老年人口が年少人口を上回り、平成 17 年に高齢化率 23.2%と超高齢化社会に突入した。

生産年齢人口は、平成 2 年以降に減少傾向であり、これに伴い、労働人口の減少が見られる。

＜産業構造＞

公害を克服し、順調に発展を遂げてきた宇部市は、先人の先見から、我が国のエネルギーの需要構造の転換にもいち早く対応し、化学工業を中心とする近代的な工業都市へと変ぼうを遂げ、現在の瀬戸内有数の臨海工業地帯が形成された。

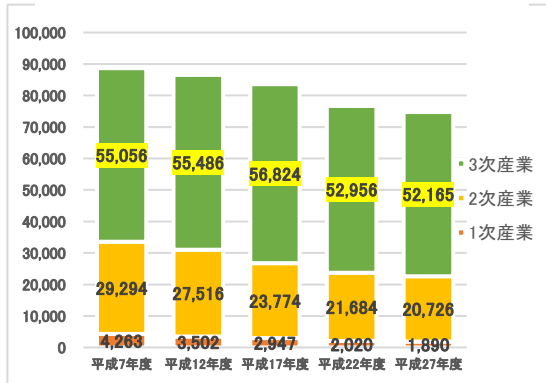
また、理工系を中心とした高等教育機関、研究機関の集積を生かし、民間企業との新技術、新製品開発に向けた取組も進められるなど、製造業を中心に、中小企業、小規模事業所の集積が進んでいる。

農業においては、江戸時代に人々が力を合わせ、海浜を干拓する「海開作」や、かんがい用としての常盤湖の築堤が行われたことから、現在においても、比較的市街地近くに田園風景を見ることができる。また市中北部の丘陵地では、水稻や野菜、お茶などの生産が行われている。

漁業においては、市南部が海に面する地の利を生かし、市内3つの漁港を拠点に、小型底引き網漁業等の沿岸漁業や、県内唯一の海苔養殖漁業が行われ、ガザミ(ワタリガニ)・小海老類は、全国トップクラスの水揚げを誇っている。

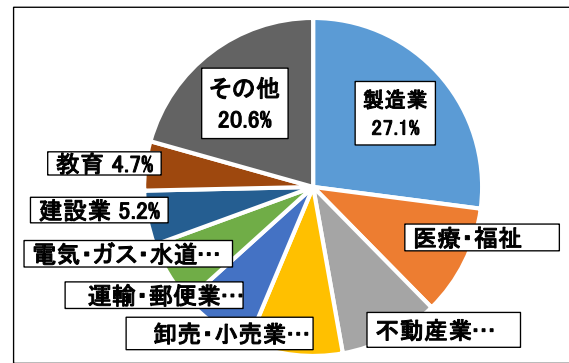
しかしながら市内総生産は平成22年以降減少傾向にあり、就業人口についても平成7年以降は減少傾向である。特に一次産業人口においては、平成27年時点で昭和60年の3割程度にまで減少している。

《宇部市の産業別就業者数の推移》



(国勢調査)

《宇部市の産業構造》



資料:平成30年総生産額(市町民経済計算)

②今後取り組む課題

人口減少・少子高齢化への対応として、様々な取組を進めているが、中小企業、小規模事業者や農林水産業、医療・福祉産業などこれまで宇部市を牽引していた産業分野では、人材不足など様々な問題が顕在化している。

これにより、産業規模の縮小、後継者不足による廃業の増加が懸念され、中心市街地の活気は失われ、人口の分散により市全体の行政効率も低下している。

また、人口減少の著しい地域では、本来有していた地域のつながりも希薄となり、独り暮らしの高齢者が増えるなど、日常生活に困る住民が増加している。

さらに、この数年続いた新型コロナウイルス感染症の拡大の影響により、人々の交流機会が大幅に減少するとともに、消費も大幅に落ち込み、その対応として、感染拡大防止対策と社会経済活動の両立を進めてきたが、ポストコロナを見据えた対応として、経済構造の転換や新たな日常への対応など、不測の事態にも適切・柔軟に対応できるまちづくりを進めていく必要がある。

一方で、高度化し急速に普及しているデジタルテクノロジーは、今後、産業、市民生活に大きな変革をもたらすことが予測され、その対応は喫緊の課題となっている。

このため、今後宇部市では、変転する社会経済情勢の中、地域に受け継がれてきた「共存同栄・協同一致」の精神を基調に、「共創」による多様な主体の連携と、高等教育機関や研究機関が集積している利点を活かした「人財」の育成・活躍の促進を図るとともに、ICT、IoTを有効に活用したデジタル革命を、産業や地域づくりで積極的に展開していくことで、誰もが安心・安全に暮らすことができる持続可能なまちづくりを進めていく。

(2) 2030年のあるべき姿

～魅力・活力・「人財」にあふれた「共存同栄・協同一致」のまち～

- 産業活動が活発に行われ、やりがいのある働く場が創出されています。
- まちはにぎわい、文化は薫り、子どもから高齢者まで誰もが輝いています。
- 地域には、ともに助け合う、安心・安全で豊かな生活があります。

2030年には、人口減少に一定の歯止めがかかり、魅力と活力にあふれた、持続可能なまちづくりが構築されていることが望まれる。

このため、次の5つのまちの姿をイメージしたSDGs未来都市の実現を目指す。

① 産業力強化・イノベーション創出のまち

2030年においては、デジタル化の進展により、医療・健康、環境・エネルギー、宇宙産業・DX・バイオなどの成長が見込める産業の創出・育成が進んでいる。就労効率は飛躍的に伸び人材不足は解消され、安定した雇用の創出と、働きたい職場づくりが進んでいる。

中小企業では、デジタル先進技術の導入等により、生産性の向上や新たな商品・技術の開発が進み、また、農林水産業においては、次世代型農業や各種データを効果的に用いた漁業が進展するなど、就労効率と所得の向上が図られ、一次産品を活用した商品開発や販路拡大も進み、付加価値の向上とブランド化による6次産業化が活発に展開されている。

また、ICT・IoT等を活用することで、様々な行政課題、地域課題の解決を図り、こうした取組を、多様な主体との連携、共創により積極的に展開していくことで、誰もがチャレンジできる機会が創出されるなど、「イノベーション創出のまち」のイメージが定着している。

② 生きる力を育み、子どもの未来が輝くまち

2030年においては、核家族化やひとり親家庭の増加などにも対応した、社会全体で子育てを支え、妊娠・出産・保育など、多様なニーズに応えることができる環境が構築されている。また、ICT教育、英語教育、環境教育など未来を担う子どもたちの生きる力を育む特色ある教育が実践されている。

さらに、全ての子どもたちに学びの機会が保障され、将来の夢や希望の実現に向けて、自ら行動しチャレンジできる支援体制が地域全体で構築されている。

③ 健幸長寿のまち

2030年には、子どもから高齢者まで、あらゆる世代が健康づくりに取り組むことができる環境が整備されている。また、誰もが、住み慣れた地域で、安心して、健やかに幸せに暮らすことのできる地域共生社会が構築されている。

④ 共に創る魅力・にぎわいあふれるまち

2030年には、中心市街地においては、都市機能や居住の集約、事業所立地、魅力ある都市空間の形成が進み、市の顔として、若者から高齢者までの幅広い世代が集い、「居心地がよく歩きたくなる」まちづくりが進んでいる。

一方、中山間部においては、日常生活に必要なサービスや交通ネットワークが確保された「小さな拠点」が形成され、森里川海の恵みを生かした地域づくりや、地域活性化につながる主体的な取組が盛んに行われている。

また、ときわ公園や彫刻など本市独自の地域資源の効果的活用、広域連携による MICE の誘致やインバウンド観光の推進などを通じて交流人口が拡大している。

⑤ 安心・安全で、快適に暮らせるまち



2030年には、市民の生命と財産を守る都市環境の整備や、地域における防災力の強化が進み、交通安全対策も充実している。

また、再生可能エネルギーの利用や、ごみの排出抑制、花・緑と調和した街並み形成など地球温暖化対策に向けた取組が地域一体となって展開され、環境への意識が高い持続可能なまちとしての評価が高まり、国際環境協力もより一層進んでいる。

また、地域、家庭、職場など様々な場において、市民一人ひとりが、互いの立場、人権を尊重した、差別の無い地域社会が形成され、女性の活躍が一層進んでいる。

(3) 2030年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール、ターゲット

(経済)

ゴール、 ターゲット番号		KPI	
 8 8. 2 8. 3 8. 5 8. 9	指標: 事業化・創業実現件数【件】(累計)		
	現在(2023年3月):	2030年:	
	149	390	
	指標: 起業創業や事業所等誘致による雇用創出人数【人】(累計)		
	現在(2023年3月):	2030年:	
	92	264	
	指標: 健康経営優良法人認定企業数【社】(累計)		
	現在(2023年3月):	2030年:	
24	90		
指標: 観光客数【万人/年】			
現在(2023年3月):	2030年:		
143	220		
 9 9. b	指標: 民間企業等のDXの取組件数【件】(累計)		
	現在(2023年3月):	2030年:	
23	63		

ゴール8

- ・ICT・IoT、ビッグデータ等を活用したイノベーション創出や、成長が見込まれる産業の創出を進めていく。
- ・従業員の働く意欲向上と定着化に向けた多様な働き方の実現のため、より良い職場環境づくりを目指す。
- ・地域資源の活用、観光産業づくりを進め、地域経済の活性化を目指す。

ゴール9

- ・中小企業成長のための環境整備を進める。
- ・中小企業の付加価値向上や生産性向上による競争力の強化を図る。

(社会)

ゴール、 ターゲット番号	KPI	
 1 1. 2 1. 4	指標: 将来の夢や目標を持っている子どもの割合(中学3年生)【%】	
	現在(2023年3月):	2030年:
	41.0	61.8
 3 3. 8	指標: ご近所ふれあいサロン箇所数(累計)【箇所】(累計)	
	現在(2023年3月):	2030年:
	218	242
 4 4. 1 4. 4 4. 7	指標: 全国学力・学習状況調査結果【全国を100とした指数】	
	現在(2022年度):	2030年:
	小学校 96.3	小学校 103.0
	中学校 103.8	中学校 105.0
 5 5. 1 5. 2 5. 5 5. b 5. c	指標: 女性活躍推進企業認証数【社】(累計)	
	現在(2023年3月):	2030年:
	202	400
 10 10. 2	指標: 障害がある人にとって宇部市が暮らしやすいまちだと思える人の割合【%】	
	現在(2023年3月):	2030年:
	44.3	90.0
 11 11. 2 11. 3 11. a	指標: 中心市街地の休日1日当たりの通行者数【人】	
	現在(2023年3月):	2030年:
	6,911	16,700
	指標: 地域計画に基づく新たな取組支援数【件】(累計)	
	現在(2023年3月):	2030年:
122	227	

ゴール1

- ・経済的に恵まれていない子どもたちを対象に、家庭学習の補完としての学習支援や、食事の提供などを通して、地域における居場所づくりを進めるとともに、**自主性・コミュニケーション能力の向上**や支援ネットワークの充実を図る。
- ・身近な地域で誰もが気軽に集える場づくりを進め、生きがい対策や仲間づくり、介護予防、健康増進を目的とした様々な交流・活動を促進する。

ゴール3

- ・身近な地域で誰もが気軽に相談できる体制を整備する。
- ・誰もが適切な医療・福祉のサービスを楽しむ地域づくりを進める。

ゴール4

- ・未来ある子どもたちが、社会で活躍できる特色ある教育を受ける取組を進める。
- ・社会に馴染めていない若者を取り残さず、社会的・職業的自立を図る。
- ・持続可能な開発のための教育、学習機会の提供と、様々な国々の多様な文化の理解を図る。

ゴール5

- ・女性がその能力を発揮・向上できる環境づくりを進める。
- ・関係機関と連携し、DVの撲滅に向けた取組を進める。
- ・性差を理由とした差別をなくす。





ゴール10



- ・障害のあるなしにかかわらず、安心して暮らすことのできる社会の実現を目指す。

ゴール11

- ・利便性の高い交通体系の構築と、公共施設等のバリアフリー化を進める。
- ・都市部には都市機能や居住を、農村部には「小さな拠点づくり」を進めた、ネットワーク型コンパクトシティを進める。

(環境)

ゴール、 ターゲット番号	KPI
 6 6. 5	指標: 国際環境協力における研修生受入数【人】(累計)
	現在(2023年3月): 1,399
 7 7. 2	指標: 公共施設への太陽光発電設備導入箇所数【箇所】(累計)
	現在(2023年3月): 44
 9 9. 4	指標: バイオマスを活用した事業創出件数【件】(累計)
	現在(2023年3月): 7
 11 11. 7	指標: 中心市街地の緑化・花壇等整備面積【㎡】(累計)
	現在(2023年3月): 1,876

 12	12. 5	指標: 1人1日当たりのごみ排出量【g】	
	13. 3	現在(2023年3月): 959	2030年: 854
 14	14. 1	指標: アクティビレッジおの(自然環境教育拠点施設)で体験学習する人数【人/年】	
	15. 4	現在(2023年3月): 3,405	2030年: 10,000

ゴール6

- ・新興・途上国に対する公害防止技術分野や上下水道分野等での技術協力・継承に取り組む。

ゴール7

- ・再生可能エネルギー等を活用し、「宇部版シュタットベルケ」を創出する。

ゴール9

- ・竹資源を中心とするバイオマスを活用した事業の創出により、バイオマス産業の活性化に取り組む。

ゴール11

- ・緑と花と彫刻に彩られた魅力あふれる都市空間の形成を進める。

ゴール12、13

- ・地球温暖化対策と、ごみ処理コストの削減を目指す。



ゴール14、15

- ・豊かな自然環境を次世代に引き継ぐ取組を進める。

2 自治体SDGsの推進に資する取組

(1)自治体SDGsの推進に資する取組


① ICT・地域イノベーション、働き方改革の推進

ゴール、 ターゲット番号	KPI	
 8 8. 2 8. 3 8. 5	指標:事業化・創業実現件数【件】(累計)	
	現在(2023年3月):	2026年:
	149	212
	指標:新規農林業就業者数【人】(累計)	
	現在(2023年3月):	2026年:
	54	66
	指標:起業創業や事業所等誘致による雇用創出人数【人】(累計)	
	現在(2023年3月):	2026年:
92	168	
 9 9. b	指標:ICT・IoT活用による社会的課題の解決件数【件】(累計)	
	現在(2023年3月):	2026年:
	34	60
	指標:民間企業等のDXの取組件数(累計)【件】(累計)	
	現在(2023年3月):	2026年:
	23	43

本市の地域特性を活かし、産学公金の連携による医療・健康、環境・エネルギー、宇宙産業・DX・バイオ等の次世代技術に関連した成長産業の創出・育成に取り組むとともに、企業誘致の推進や起業・創業の支援に加え、地元企業の魅力を積極的に発信し、若者にとって魅力ある雇用創出を図る。



また、中小企業が新しい時代の消費者ニーズの変化等に対応できるようにデジタル化を推進していくとともに、働く側にとってより働きやすい職場環境づくりを推進する。

② 観光産業の推進

ゴール、 ターゲット番号	KPI	
 8 8. 9	指標: 観光客数【万人/年】	
	現在(2023年3月): 143	2026年: 180
	指標: 本市における観光客の旅行消費額【億円/年】	
	現在(2023年3月): 105	2026年: 123


観光地域づくり法人(DMO)などを中心に、地域資源を効果的に活用した地域経済の活性化につながる観光産業づくりを進める。

③ 地域支えあい包括ケアシステムと連携したコンパクトシティの推進

ゴール、 ターゲット番号	KPI	
 3 3. 8	指標: 地域福祉総合相談センターにおける相談件数【件】(累計)	
	現在(2023年3月): 7,808	2026年: 8,000
	指標: ご近所ふれあいサロン箇所数【箇所】(累計)	
	現在(2023年3月): 218	2026年: 230
 11 11. 2 11. a	指標: 地域計画に基づく新たな取組支援数【件】(累計)	
	現在(2023年3月): 122	2026年: 167
	指標: 地域内交通利用者数【人/年】	
	現在(2023年3月): 10,365	2026年: 12,000



人口減少や高齢化の進展に対応していくうえで、効率的で健全な都市経営を目指すコンパクトなまちづくりと、住み慣れた地域での生活を支える「地域支え合い包括ケアシステム」を相互に連携させた、持続可能で暮らしやすい地域共生型のまちづくりを進める。

④ 持続可能な開発を学ぶための教育、学習機会の推進

ゴール、 ターゲット番号	KPI	
 4 4. 1 4. 4 4. 7	指標: 課題の解決に向けて、自分で考え主体的に取り組もうとする児童生徒の割合【%】	
	現在(2022年度):	2026年:
	小学生: 30.6 中学生: 35.8	小学生: 32.0 中学生: 34.0
	指標: 中学校卒業段階で英検3級程度以上の英語力を身につけた生徒の割合【%】	
	現在(2023年3月):	2026年:
	53.4	54.0
	指標: 環境学習教材等活用校数【校】(累計)	
現在(2023年3月):	2026年:	
14	22	



持続可能な開発に向けて、主体的に行動できる人材を育成するために、知識の伝達に留まらず、体験や体感を通じた教育、学習機会の提供に取り組む。

⑤ 若者・女性の活躍推進

ゴール、 ターゲット番号	KPI	
 4 4. 1 4. 4 4. 7	指標: 高校生の市内就職割合【%】	
	現在(2023年3月):	2026年:
	41.7	45.0
	指標: 女性活躍推進企業認証数【社】(累計)	
 5 5. 1 5. 2 5. 5 5. b 5. c	現在(2023年3月):	2026年:
	202	305
	指標: 女性職場環境改善件数【件/年】	
	現在(2023年3月):	2026年:
	17	20



若者が地元への誇りや愛着を培うきっかけとなる地域交流・地域づくりやまちづくりに参画できる機会を増やすとともに、その活動を支援する。また、子育てや家族を介護している人も含め、女性が就労など社会参画を通して能力を発揮できる環境づくりを進める。

⑥ 共生社会の推進

ゴール、 ターゲット番号	KPI	
 10 10. 2	指標: 障害がある人にとって宇部市が暮らしやすいまちだと思ふ人の割合【%】	
	現在(2023年3月): 44.3	2026年: 86.0
 11 11. 2	指標: 公共(学校施設は除く)・民間施設のバリアフリー化工件数【件/年】	
	現在(2023年3月): 23	2026年: 32

障害のあるなしにかかわらず、お互いの個性を認め合い、安心していきいきと暮らせる共生社会の実現に向けて、ユニバーサルデザインの街づくり、文化やアート、スポーツを通じた心のバリアフリーを進める。


⑦ 子どもの貧困対策、地域の見守り・支え合いの推進

ゴール、 ターゲット番号	KPI	
 1 1. 2 1. 4	指標: 将来の夢や目標を持っている子どもの割合(小学6年生)【%】	
	現在(2023年3月): 65.8	2026年: 80.0
	指標: 将来の夢や目標を持っている子どもの割合(中学3年生)【%】	
	現在(2023年3月): 41.0	2026年: 57.2
 11 11. 3	指標: ご近所ふれあいサロン箇所数【箇所】(累計)	
	現在(2023年3月): 218	2026年: 230

経済的に恵まれていない子どもたちを対象に、家庭学習の補完としての学習支援や、食事の提供などを通して、地域における居場所づくりを進めるとともに、自主性・コミュニケーション能力の向上や支援ネットワークの充実を図る。

身近な地域で誰もが気軽に集える場づくりを進め、生きがい対策や仲間づくり、介護予防、健康増進を目的とした様々な交流・活動を促進する。



⑧ 活力ある都市空間の形成

ゴール、 ターゲット番号	KPI	
 11 11.7	指標：中心市街地の緑化・花壇等整備面積【㎡】(累計)	
	現在(2023年3月):	2026年:
	1,876	2,300
	指標：花・緑と調和した彫刻配置計画の進捗率【%】	
	現在(2023年3月):	2026年:
	77.8	100.0
指標：中心市街地の休日1日当たりの通行者数【人】		
現在(2023年3月):	2026年:	
6,911	16,300	

本市が公害を克服し、工業都市として発展を遂げる過程で取り組んできた「緑と花と彫刻のまちづくり」の新たなステージとして、市街地の整備に合わせた花の回廊づくりや、市民・企業等と一体となった花づくりや緑化運動、産業化の促進など、「ガーデンシティうべ」を目指した取組を展開する。






また、市街地においては、多世代が交流する賑わいの拠点づくりとウォーカブルな公共空間の創出により、活力ある都市空間を形成する。

⑨ 地域エネルギー・バイオマス産業都市の推進

ゴール、 ターゲット番号	KPI	
 7 7.2	指標：公共施設への太陽光発電設備の導入箇所数【箇所】(累計)	
	現在(2023年3月):	2026年:
	44	47
 9 9.4	指標：エネルギー利用のスマート化実証事業数【件】(累計)	
	現在(2023年3月):	2026年:
	4	8



地域にあるバイオマスを活用していくため、竹資源を中心とするバイオマス関連産業の創出に取り組む。また、再生可能エネルギーの導入促進を図り、最適なエネルギーの利活用の仕組みによるスマートコミュニティを推進する。

⑩ 環境保全対策の推進

ゴール、 ターゲット番号		KPI	
 6	6. 5	指標: 国際環境協力における研修生受入数【人】(累計)	
		現在(2023年3月): 1,399	2026年: 1,450
 12	12. 5	指標: 1人1日当たりのごみ排出量【g】	
		現在(2023年3月): 959	2026年: 910
 13	13. 3	指標: 民生部門からの温室効果ガス排出量【千トン-CO ₂ /年】	
		現在(2023年3月): 473	2026年: 491
 14	14. 1	指標: 汚水処理人口普及率【%】	
		現在(2023年3月): 93.2	2026年: 95.0
 15	15. 4	指標: 新規農林業就業者数【人】(累計)	
		現在(2023年3月): 54	2026年: 66

持続的な開発に向けた市民、企業等の関心を高め、ごみの排出抑制や森里川海の保全につながる主体的な行動、地域づくりを促進する。また、公害を克服したまちとして、新興・途上国の環境改善につながる国際環境協力や、SDGsの普及促進に取り組む

⑪ 「共創」による SDGs人財の育成

ゴール、 ターゲット番号	KPI	
 4 4. 7	指標:子どもの SDGs人財の育成者数【人】(累計)	
	現在(2023年3月): 1,566	2026年: 2,166
 17 17. 16 17. 17	指標:SDGs出前講座、探究学習参加者数【人】(累計)	
	現在(2023年3月): 2,915	2026年: 4,975

パートナーシップの推進に向けて、多様な主体がゴールを共有するとともに、SDGs への理解を深め、広い視野に立った多様な発想や行動ができる人材を育成する。

また、「持続可能なまちづくり」を推進するため、市民が一方的な行政サービスの受け手としてではなく、自発的に地域課題を解決できる人財を育成するための取り組みを行う。

(2)情報発信

(域内向け)

次世代を担う「人財」の育成

1. 「せかい！動物かんきょう会議」の開催による次世代を担う「人財」育成

国内で初めて全園での生息環境展示を採用した「ときわ公園」を対象とする宇部市をフィールドに、未来を担う子どもたちが世界の様々な環境や文化などを学び、持続可能な社会について考える「せかい！動物かんきょう会議」を開催する。このことにより、SDGs 視点(世界的・第三者的視点)に立った多様な発想・行動ができる次世代「人財」を輩出する。また、インストラクターは大学生、留学生、市民から募集し、幅広い層への普及を図る。



2. デジタル社会の基盤を支える「人財」育成

デジタル技術を活用した地域課題の解決や市民生活の利便性向上に向けて、大学等と連携した実践的な取組を実施し、地域で活躍するデジタル「人財」を育成する。



3. 探究学習支援を通じた、次世代を担う「人財」育成

市内高校と連携し、生徒自らが課題を設定し、その課題解決に取り組む探究学習において支援を行う。学習に当たっては、本市が抱える喫緊の課題、なかでも、環境、人権、健康・福祉、まちづくりなど、SDGs と密接にかかわるテーマについて、生徒自ら情報を収集・分析し、市職員と意見交換を行う。これらの、高校生と市が「課題」と「あるべき姿」を共有して取り組む「共創による活動」を通じて、多様な発想・行動ができる「人財」育成に取り組む。



4. 子どもの貧困対策を通じた、次世代を担う「人財」の育成

経済的に困窮した世帯の子どもを対象に、家庭学習の補完としての学習支援や、食事の提供などを行う居場所づくりに取り組み、次世代「人財」の健やかな成長を支援する。

5. 学校教育における「人財」育成

全小中学校で教育活動を SDGs の視点から見直し実践することで、子どもたちが現代社会の課題を自らの問題として捉え、課題解決に向けて主体的に行動できる「人財」を育成する。



共生社会実現に向けた「人財」の育成

6. 共生社会実現を担う多世代の「人財」育成

障害の有無や性別、年齢、国籍の違いに関わらず、全ての人がお互いの人権や尊厳を大切に、誰もが安心して暮らせる共生社会の実現に向けて、若い世代をはじめとした幅広い層の支援人財の育成を図り、地域で支える環境づくりを進める。

また、障害のある人や高齢者等の社会参加を推進する地区が「地域共生社会モデル地区」となり、地域共生社会の実現に向けて様々な取組を行う。



中山間地域を支える「人財」の育成

7. 元気・安心・地域づくりによる中山間地域を担う「人財」育成

地域づくりの支援の体制を強化するとともに、地域や農業を支える新たな担い手となる「人財」の確保・育成を図りながら、SDGs の推進を普及啓発する。



施策・事業の展開に伴う情報発信

8. 施策・事業の展開に伴う情報発信

宇部市総合計画や第2期宇部市まち・ひと・しごと創生総合戦略などにおいて、SDGs17の開発目標と各事業の取組を整理する。

今後、各施策の個別計画の策定や、出前講座・セミナー等の機会を通して、SDGs達成に向けた宇部市の取組を情報発信していく。



(域外向け(国内))

環境活動をリードする「人財」の育成

1. 宇部 SDGs 専用サイトの構築によるネットワークの形成

SDGs ポータルサイト「宇部SDGs推進センター」において、各省庁や SDGs への取組が進んだ企業の HP にリンク設定するなど、効果的な情報発信に取り組む。また、志を同じくする SDGs 未来都市との間で、自治体間はもとより、市民団体間のネットワークを構築し普及展開を図る。



(海外向け)

国際社会で活躍する「人財」の育成

1. 国際交流における「人財」育成、普及啓発

宇部市が姉妹都市協定を提携しているオーストラリア・ニューカッスル市やスペイン・カステジョ・デ・ラ・プレーナ市、友好都市協定を締結している中国・威海市などとの経済交流・「人財」育成を通じて、SDGs の推進を普及啓発する。



環境活動をリードする「人財」の育成

2. 国際環境協力における普及啓発

環境問題を抱える新興・途上国から、産業発展と市民福祉が調和した持続可能なまちづくりを進める「宇部方式」の手法を学ぶ研修生を受け入れ、「宇部方式」を世界に発信するとともに、SDGs の推進を普及啓発する。



(3)普及展開性

(他の地域への普及展開性)

地方都市共通の課題への対応

宇部市と同様の中規模の自治体においては、人口減少、少子高齢化の進行に伴い、産業振興、地域づくりのいずれにおいても、人材不足、担い手不足が深刻な状況となっている。

また、まちの顔となる中心市街地は、郊外への大型商業施設の立地、モータリゼーションの進展等により空洞化が進んでおり、まちの衰退が交流人口のさらなる減少を生む悪循環に陥っている。

宇部市では、地域を支える人の力を地域発展の財産「人財」と位置づけ、宇部 SDGs 推進の原動力としている。

そのプラットフォームを衰退が続く中心市街地に設置し、ICT、IoT 等を積極的に活用するデジタル革命を、産業振興を軸に、人材育成や安心・快適な暮らし、環境保全などに起こし、あわせて中心市街地における「人財」の交流・定住を促進することで、にぎわいをもたらし、多くの地方都市が直面する課題の解決につなげる。

地域の「人財」を活かす、汎用性の高い取組

宇部 SDGs は、受け継がれてきた「共存同栄・協同一致」の精神のもと、多様なステークホルダーの英知を結集し、課題を解決する「宇部方式」の手法を取り入れ展開していくもので、大都市や特別な資源を持つ都市ではない中規模の地方都市が、どの地域も有する「人財」の英知を活かし、つなぎ、課題を解決する取組だからこそ、他の地方都市や新興・途上国の都市においても、汎用性の高い模範的な取組事例となりえる。

ばいじん汚染への対応が、先進事例として模範となったと同様に、宇部 SDGs による、持続可能なまちづくりに向けたデジタル・産業革命を展開し、国内外の都市をリードしていく。

3 推進体制

(1) 各種計画への反映

1. 第五次宇部市総合計画 前期実行計画

2022年からスタートした第五次宇部市総合計画前期実行計画では、国が策定した「持続可能な開発目標(SDGs)実施指針」(改訂版)を踏まえ取組を進めることを明示し、SDGsの17の開発目標と各施策・事業の取組を整理した。

2. 第2期宇部市まち・ひと・しごと創生総合戦略

基本的な施策の方向性の中で、「多様な産業で輝く宇部 SDGs 未来都市」を推進することとし、また、各施策とSDGsの相関を関連表により整理した。

3. 宇部市産業振興計画

産業振興の方向性を示した基本方針とSDGsのゴールを関連付け、計画を推進している。

4. 宇部市農林水産業振興計画

4つの基本目標とSDGsのゴールを関連付け、計画を推進している。

5. 第三次宇部市環境基本計画

本市の環境保全に関する施策を総合的かつ計画的に推進するとともに、近年の大きな課題となっている脱炭素社会への移行や、循環型社会の形成、自然共生社会の構築などの社会的要請に対応することを目的に策定した計画であり、SDGsの理念に沿った取組を推進し、その実現を目指している。

6. 第二次宇部市生物多様性地域連携保全活動計画

本計画は、宇部市生物多様性地域連携保全活動計画(平成25年3月策定)の成果と課題を踏まえて、近年の大きな課題となっている自然と共生する世界の実現などの社会的要請に対応するものであり、SDGsの観点を踏まえながら計画を推進する。

7. 地域ふくしプラン

計画の更新にあたり、SDGsの目標達成との関連を記載している。今後SDGsの観点を踏まえながら計画を推進する。

8. 宇部市高齢者福祉計画

計画の更新にあたり、SDGsの目標達成との関連を記載している。今後SDGsの観点を踏まえながら計画を推進する。

9. 宇部市障害福祉プラン

計画の更新にあたり、SDGs の観点を踏まえながら計画を推進する。

10. 第2期宇部市子どもの貧困対策推進計画

計画の策定にあたり、SDGs の目標達成との関連を記載している。今後 SDGs の観点を踏まえながら計画を推進する。

11. 子育てプラン・うべ(第2期宇部市子ども・子育て支援事業計画)

計画の基本理念において、SDGs 未来都市計画との関係について整理したほか、各個別施策と SDGs ゴールとの関係を関連表により整理している。

12. 宇部市地域公共交通計画

計画の策定にあたり、SDGs の目標達成との関連を記載している。今後 SDGs の観点を踏まえながら計画を推進する。

13. その他計画

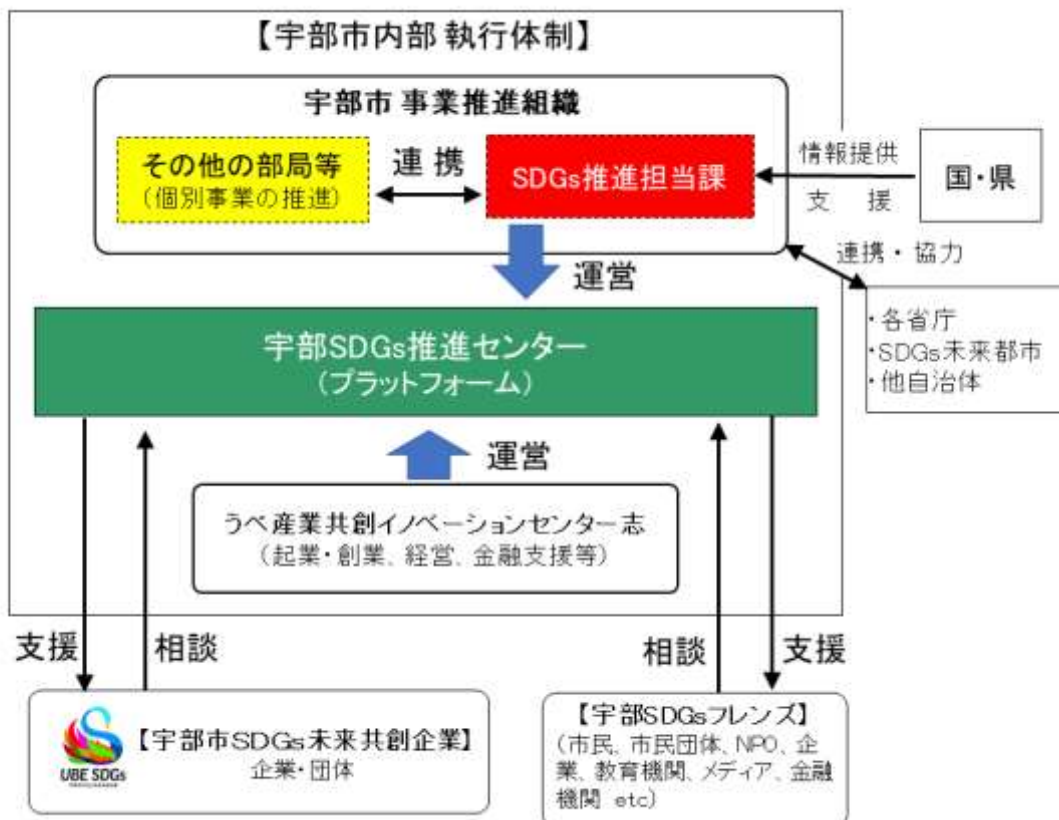
今後、各分野の個別計画の策定、改定にあたっては、SDGs との関連性を明示し、その観点をもって計画を推進する。

(2) 行政体内部の執行体制

2030年のSDGs未来都市の実現を目指し、魅力と活力にあふれた、持続可能なまちづくりを推進していくために、施策の融合を図り相乗効果を高めていくことが必要となる。

このため、宇部市では、国や他のSDGs未来都市をはじめとする各市町との連携を図るとともに、個別の事業を推進する各部署が連携し、市全体でSDGsを推進していく。

また、SDGs推進拠点として「宇部SDGs推進センター」を設置し、住民、企業及び教育機関等、市内外を問わず、SDGsのゴール達成に向けた宇部市の取組と、人・物・金・知を結びつけるプラットフォームとして、多様な主体と共に考え、学び、イノベーション創出にとどまらず、様々な課題解決に取り組む場としている。



(3) ステークホルダーとの連携

1. 域内外の主体

(「共創」による持続可能なまちづくり)

2030年に向けてのまちづくりにあたり、これまでの「協働」を基本としつつ、多様なステークホルダーが目標設定の段階から連携し、地域の課題を共有するとともに、その対策を考え課題解決に取り組んでいく「共創」の考え方を基調に進め、社会・経済・環境が調和した持続可能なまちの形成を目指す。



(オープンイノベーションシステム推進にかかる連携)

成長産業の創出・育成をはじめとした新事業の創出や生産性向上、デジタル技術の活用といったイノベーション創出に向けた取組や、起業・創業の支援、地域課題の解決を図るため、「共創によるまちづくり」の原点である「共存同栄・協同一致」の精神を基調に、宇部商工会議所、市内金融機関、山口大学、高専、県産業技術センター、地元企業など、多様な主体の連携を強化し、産業振興と人づくり、まちづくりを同一軸にととらえ、相互信頼と協調の精神をもって、地元経済の循環と自律可能な事業の創出・育成を推進する。

(1) 商工会議所・(株)にぎわい宇部

中小企業・小規模企業の参画を促し、操業における課題や新事業を展開するうえでの課題、生産性を向上するうえでの課題、また、事業効果を高める事業者間の連携可能性等を発掘するとともに、タウンマネジメントの視点から、事業所の立地、活動をサポートする。

(2) 市内金融機関

新事業展開や、創業等において、金融面から経営支援・アドバイスを実施する。

(3) うべ産業共創イノベーションセンター 志 (通称:うべスタートアップ)

起業・創業や企業経営等に関する相談にワンストップで対応するとともに、起業家同士・市内事業者間との交流促進や産・学・公・金と連携した各種セミナー・コンテスト等のプログラム提供を通じてイノベーションの創出を支援する。



(4) 宇部市成長産業推進協議会

本市が保有する産業集積や大学等の高等教育機関、試験研究機関の立地など有利な地域特性を活かし、「産・学・公・金」が連携し、医療・健康関連や、環境・エネルギー関連のほか、宇宙産業やDX(IoT・AI・5G)、バイオなどの次世代技術関連の3つの成長産業の創出・育成と、雇用の場を創出する企業誘致などに取り組む協議会を設置し、次世代に向けて、地域産業力の一層の強化と人材育成を図る。



(5) うべ・未来共創プラットフォーム

昨今の地域課題を共有・把握するとともに、地域の人材育成や課題解決を図る、いわゆる「共創によるまちづくり」を進めることを目的に、地方公共団体、産業界、大学等が一体となった恒常的な議論の場として、「うべ・未来共創プラットフォーム」を設立する。



(6) 山口大学をはじめとした学術研究機関

企業の課題解決を図るうえで、ICT、IoT、オープンデータの活用など、技術面からアドバイスを実施する。

特に、高度な機器が揃い施設が充実している山口大学「志イノベーション道場」を、アイデアの創造や実践の場として、中小企業者によるアイデアの試作・商品化、デザイン、販路拡大などあらゆる分野について、若い人たちの発想も取り入れながら、研究を進め、事業化を図る。

(7) うべ未来エネルギー株式会社

関係機関連携の下、宇部市内の再生可能エネルギーを効率的に活用することでエネルギーの地産地消を図り、市公共施設の電気料金の抑制とともに、資金循環を喚起する。今後、資金循環による地域経済の活性化や市民サービスの向上、さらには低炭素で災害に強いまちづくりに貢献する。

(8) 地元企業

経営基盤の強化や技術の向上、人材育成など持続的な発展に向けた取組を進める。

(9) 行政

専門家による総合相談窓口を設置し、起業創業・経営などに関する相談のほか、起業家などのネットワーク形成や、スキルアップ支援など、スタートアップ機能を充実させていく。

また、事業効果を高める事業間連携、異業種企業連携にも取り組む。

あわせて、事業承継への対応や、ICTの活用等において、必要に応じて専門家を加えたチームを編成し課題解決を図る。

(多様な働き方確保の支援にかかる連携)

(1)ハローワーク

就労相談や無料職業紹介を行うハローワークと緊密な連携を図りながら、深刻な人手不足に直面する中小企業・小規模事業者の人材確保と、女性や高齢者など意欲のある求職者のニーズに応じた多様な働き方を推進する。

(2)移住・定住サポートセンター

職とあわせて、住居、地域の情報の一元化を図ることで、移住・定住サポートセンターと連携し、移住目的に応じたきめ細かなサポートを実施する。

(3)オープンイノベーションシステム

「うべ産業共創イノベーションセンター志」と連携し、企業や地域における人材不足の解消を図る。

(4)行政

多様な働き手の確保、やりがいのある職場づくりとして、子育て支援や、女性活躍、障害福祉など、他の施策、関係機関との調整を図る。

(ESDの推進、環境活動にかかる連携)

SDGs 推進センターを拠点に、行政と環境団体が連携して、SDGs 推進に向けた環境学習や環境活動などを実施する。

(1)まちなか環境学習館(うべ環境コミュニティー)

ESD(持続可能な開発のための教育)を推進しているまちなか環境学習館(うべ環境コミュニティー)が中心となり、他の関係機関と連携し、宇部 SDGs 推進につながる、持続可能な開発のための教育、学習機会の開発・提供を図る。

(2)宇部市地球温暖化対策ネットワーク(地球温暖化対策地域協議会)

地域における温暖化対策や省エネの推進、低炭素社会に向けた交通手段の普及啓発などを実施する。

(3)宇部環境国際協力協会

環境関連研究生の受け入れや環境専門家の派遣、国際環境問題の啓発など国際環境協力の取組を実施する。

(地域共生型のまちづくり(地域支えあい包括ケアシステム)における連携)

住み慣れた地域で、誰もが安心して自分らしく暮らせるよう多様な主体が連携。

(1)地域運営組織

地域の実情に基づき、地域の課題を考え解決する仕組みをつくる。

(2)地域福祉総合相談センター「福祉なんでも相談窓口」

地域運営組織と連携して、地域の実態を把握し課題を明確化。

(3)社会福祉協議会

地域資源の把握、情報提供等により地域運営組織の取組をサポート。

(4)行政

3. 海外の主体

(姉妹都市オーストラリア・ニューカッスル市との連携)

平成3年度から中学生をニューカッスル市に研修派遣する事業を主催している。

また、平成3年度からニューカッスル市のハイスクール生徒を招致する日本語スピーチコンテスト優秀者招致事業を実施共催している。

今後も市内中学生を対象に、ハイスクール訪問を中心とした研修に加え、大学における研修や政府系機関等への訪問を通じてグローバルな人材養成を目指すジュニアグローバル研修事業を実施する。

これらの事業により、広い視野と国際感覚を持つリーダーの育成を図るとともに、石炭・エネルギーを介した生産者・消費者としての両市の結びつきや、少数者であるアボリジニやその文化、移民・多文化国家の暮らし・考え方などに触れることができる貴重な経験の場を提供することで、文化の多様性と、持続可能な開発への貢献の理解を図る。

《姉妹都市協定提携日 1980年11月21日》



(友好都市中国・威海市との連携)

友好都市である威海市とは、昭和63年から交流を進めている。中国では急速な工業化に伴う環境問題を抱えており、引き続き、環境の保護・改善に向けた取組を威海市と連携して進める。

また平成30年2月の宇部市友好訪問団の派遣において、威海市から環境保護人材、介護人材、電子情報人材などの「人材の育成と交流」、省エネ・環境保護分野、健康養老分野での「経済技術協力のメカニズム」、海洋産業の発展、海洋汚染の防止についての「関連産業の国際連合の建設」などの提案があり、今後、これら提案を進める実務的協議の場を設け、取組を進める。

《友好都市協定締結日 1992年5月18日》



(姉妹都市スペイン・カステジョ・デ・ラ・プラーナ市との連携)

平成 25 年 5 月に カステジョ・デ・ラ・プラーナ市から宇部市長宛ての親書及び記念品が送付されて以来、交流・連携について協議を進め、平成 31 年 4 月に姉妹都市提携を締結した。

今後は以下の事業において連携・交流し、これらを通じて SDGs の取組を進める。

- ①「食」を通じた人的交流への支援
- ②イベントを通じた両市製品の PR
- ③スポーツを通じた人材育成
- ④高齢者の健康確保など政策研究分野での交流
- ⑤両国文化啓蒙プロジェクト

《姉妹都市協定提携日 2019 年 4 月 4 日》



(その他の連携・交流事業)

これまで、新興・途上国 60 か国から 1,417 人の研修員を受け入れ、「宇部方式」の手法や公害防止技術、水道水質の改善など相手地域の環境問題の解決に向けた研修を引き続き実施するなど、今後も、「グローバル 500 賞」受賞都市として、国際環境協力に取り組む。



(4) 自律的好循環の形成

(自律的好循環の形成へ向けた制度の構築等)

①宇部 SDGsフレンズ制度(宣言制度)

SDGs に関連する活動に取り組んでいる、或いは関心のある団体、個人が登録し、相互交流や情報交換を通じて連携を図ることができるプラットフォームとして、「宇部 SDGs フレンズ制度」(宣言制度)を構築した。会員は本市内の SDGs に関するポータルサイト、「宇部 SDGs 推進センター」ウェブページ上で、各々の取組について発信でき、相互連携の足がかりとなっている。

②宇部市 SDGs 未来共創企業登録制度

SDGs に積極的に取り組む企業を「宇部市 SDGs 未来共創企業」として登録することにより、多くの市内企業等が SDGs への理解を深めるとともに、SDGs の視点を企業活動に積極的に取り入れ、「持続可能なまちづくり」の推進を目指す。

また、登録による情報発信を契機に、制度に関連するステークホルダーとの連携の下、自発的な企業間交流やビジネスマッチングにつながる仕組みを構築する。



《登録企業ロゴマーク》

③宇部市 SDGs 私たちの未来共創補助金

SDGs の達成に向けて、地域や市民団体、事業者、学生などが行う、本市の社会的課題や地域課題の解決、SDGs 意識の向上、SDGs 人材の育成などの取組に対し補助金を交付し、SDGs 未来都市としての連携共創を促す。



④自律的好循環の促進

また、本市の SDGs 推進の拠点施設である「宇部 SDGs 推進センター」を、新たなビジネス・地域づくりを誘発するイノベーション創出拠点「うべ産業共創イノベーションセンター」と併設されていることから、市民・企業・大学・行政など多様なステークホルダーが課題解決に向けて集い、交流することで自律的・自立的循環の形成を促している。



(将来的な自走に向けた取組)

本計画では、「経済」、「社会」、「環境」の三側面でのアプローチの共通項として、ひとづくり・ネットワークづくりをテーマに事業展開している。特に、次世代の育成については教育委員会と連携し、小中学校において SDGs に関する教育に取り組むなど、積極的な浸透を図っている。

4 地方創生・地域活性化への貢献








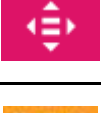
本市の総合戦略では、「まち」、「ひと」、「しごと」の政策課題・目標に対する横断的なアプローチとして、多様な人財の活躍、Society5.0の推進、SDGsの達成に向けた取組を通じた持続可能なまちづくりを掲げている。

一方で、地域の持続性の追及においては、経済・社会・環境の自律的・自立的好循環が必要不可欠である。










そこで、本計画では、国が策定した「持続可能な開発目標(SDGs)実施指針」(改訂版)も踏まえて、「産業力強化・イノベーション創出のまち」、「生きる力を育み、子どもの未来が輝くまち」、「健幸長寿のまち」、「共に創る魅力・にぎわいあふれるまち」、「安心・安全で、快適に暮らせるまち」づくりを目指した施策を展開する中で、経済・社会・環境の好循環を目指すものとしている。

加えて、まちづくりの根幹を担う「人財」の育成・活躍の推進により、持続可能なまちづくりを進めていくこととしている。

参考:2030年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴールとSDGs推進に資する取組体系(1)

分野	2030年のあるべき姿に向けた優先的なゴール	自治体SDGsの推進に資する取組											
		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	
		働き方改革の推進	観光産業の推進	連携したコンパクトシティの推進	地域支えあい包括ケアシステムと教育、学習機会の推進	持続可能な開発を学ぶための	若者・女性の活躍推進	共生社会の推進	子どもの貧困対策、地域の見守り・支え合いの推進	活力ある都市空間の形成	産業都市の推進	地域エネルギー・バイオマス	環境保全対策の推進
経済		○	○										
		○											
社会								○					
				○									
					○	○							○
						○							
								○					
				○				○	○				

参考:2030年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴールとSDGs推進に資する取組体系(2)

分野	2030年のあるべき姿に向けた優先的なゴール	自治体SDGsの推進に資する取組											
		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	
		働き方改革の推進	観光産業の推進	連携したコンパクトシティの推進	地域支えあい包括ケアシステムと教育、学習機会の推進	持続可能な開発を学ぶための教育、学習機会の推進	若者・女性の活躍推進	共生社会の推進	子どもの貧困対策、地域の見守り・支え合いの推進	活力ある都市空間の形成	産業都市の推進	地域エネルギー・バイオマス	環境保全対策の推進
環境												○	
												○	
												○	
									○				
												○	
												○	
												○	
												○	
共創		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

宇部市 第3期SDGs未来都市計画(2024~2026)

令和6年3月 策定